



お江戸舟遊び瓦版63号

水彩都市江東 ころこ美しい日本の再生 安全・安心まちづくり
お江戸舟遊びの会 江東区千田13-10

「里海」の自然再生と浅海資源 茨城の海から考える

第22回常磐・鹿島灘の漁業を考える水産海洋地域研究集会

日本晴れの中、水戸の偕楽園の梅を横目に那珂湊の茨城県水産試験場の隣で市民参加の素晴らしい地域研究集会が開催されました。

茨城の海からころこ美しい日本再生を皆で考える貴重なシンポジウムでした。

日時：平成20年3月15日 13時～17時
所：大喜や二階ホール（水産試験場の隣）
共催：水産海洋学会・茨城県水産試験場
常磐・鹿島灘の漁業を考える会
後援：那珂湊漁協・磯崎漁協
ひたちなか商工会議所
挨拶：水産海洋学会長 渡邊良明
茨城水試場長 川前政幸
趣旨説明：茨城水試 二平 章



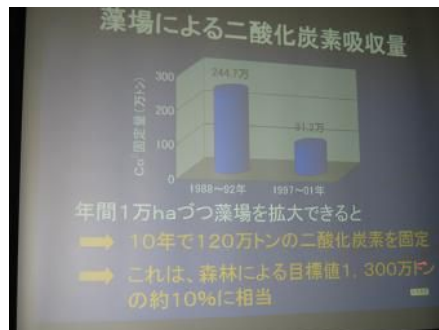
趣旨説明の二平章氏

- ・ 奈良時代のはじめに書かれた「常陸国風土記」には、茨城の磯にはアワビ、ウニ、魚介類が多く、海辺には豊かな里があり人々は磯からさまざまな恩恵を受けている様子が記述されている。磯はまた食料生産の場としてばかりでなく、いにしえから人々に安らぎと潤いを与えてきた場所でもある。
- ・ 戦後の高度成長期以降、多くの浅海や干潟などが失われてゆく中、近年、残された浅海域生態系の保全と再生を図りながら、その豊かな浅海域の環境と生物を「里海」の地域資源として再認識し、地域の活性化・地域再生に役立てようという動きが活発化してきている。
- ・ 今回は浅海岩礁生態系の価値を再認識し、浅海漁業再生と地域活性化について議論したい。

基調講演

1. 豊かな「里海」の再生と地域主義 JF全漁連 市村隆徳

- ・ 漁業が沿岸域の環境を守り、生態系の維持に貢献している。
- ・ 「里海」における藻場・干潟・サンゴ礁の役割は大きく、藻場造成によるCO₂吸着については大いに期待できる。
- ・ 「里海」とは、持続可能な利用を推進することにより生産力が増し、適切に人の手を加え続けることで、海域が有している生物多様性や水質浄化機能などを有している生態系が守られ豊かで美しい海域を創ることを意味するものといえよう。



- ・ この里海を中心的に担う漁業者の活動により豊かな海を再生し、伝統的な海洋文化を育みたい。

2. ヨーロッパに見る観光資源としての魚介類と海 地域交流センター 明戸真弓美

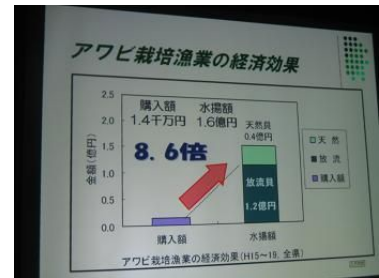
- ・ イタリア発のスローライフは地産地消で、食を見直そうという運動で、郷土・手料理・自然食材！
- ・ 日本にも観光庁が出来る時代になり、食文化を発信する日本の目玉は「魚」である。
- ・ 観光は住んでいる人達が楽しく生きることがポイントで、小さな漁村に期待が高まっている。

3. 茨城の海辺の自然 ミュージアムパーク茨城県自然博物館 池澤広美

- ・ 茨城の海は北側半分が岩礁地帯、南側半分が砂浜海浜に二分され、特徴的な生態系が見られる。
- ・ 茨城の海辺と人々との関わりは、縄文時代まで遡ることが出来る悠久なものである。

4. アワビ資源の長期変動と海洋環境 城県水産試験場 嶋下真吾

- ・ 常陸国風土記にもアワビ、ウニが多く産すると書かれているが、近年生産量が減少してきたが、海に関心を持つ地域住民に共感を
得て、試験研究を進め、栽培漁業の展開で増産が見えてきた。



5. 茨城の海藻分布と採藻漁業 茨城県水産試験場 所高利

- ・ 茨城県における海藻類の分布は、潮間帯では県央・県北部が主体であり、特に天然の岩礁帯では多種多様な海藻が生育し、四季ごとに豊かな自然環境を演出している。潮下帯のアラメ、ワカメを主体とした海中林は、魚介類の産卵場、幼稚子魚の隠れ家、藻食動物の餌、水質浄化といった機能をもっており、浅海域の生態系で重要な役割を果たしている。

6. 浅海域の自然再生と増殖 元福島県水産試験場 秋元義正

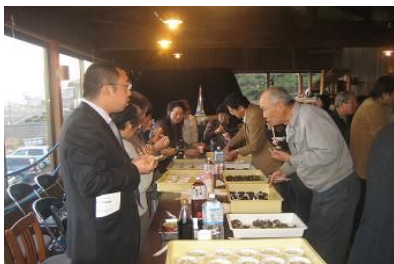
- ・ 物質的に豊かさを求めて工場建設や国土開発を行ってきたが、身の回りの自然環境が汚染された。
- ・ 今や持続可能な発展が世界の合言葉で、環境問題を取り巻く情勢は変わりつつある。
- ・ しかし、水産の事情は厳しく、資源の減少が続いており、自然生態系の保全、自然再生、環境修復の取り組みは人類にとって緊急の課題である。環境が悪化した沿岸漁場では、漁場環境を修復することで、幼稚魚の育成場所を改善し、自然再生法を真に中身のあるものに転換できる。

総合討論 司会 中瀬勝義 (海辺つくり研究会)、二平章 (茨城県水産試験場)

- ・ 中国餃子問題などから見えてくることは、食の安全のために、今こそ自給自足・地産地消の時代を取り戻すライフスタイルが望まれる。農林水産業が 100%自給できる国のあり方が必要で、水産業の復活が望まれる。今回の水産試験場研究者の前向きな研究発表に勇気付けられた。
- ・ 地元でこのような研集会が開催されたことに感謝したい。
- ・ アワビ組合、組合婦人部、加工組合、商工会議所など 60 余名の参加で、感想を語る場になり、食の安全など、時宜を得た貴重なものとの意見が多く、感謝のうちに終わることとなった。

交流会 地元の磯根魚介類を使った料理紹介 大内正光 (大喜や)

- ・ 蒸しアワビ、フクロノリの寒天風、ヒジキのサラダ、フノリ入り手打ちうどんの大豪華料理



鮮魚で大賑わいの「大喜や」



美しい平磯海岸



茨城県水産試験場



民宿「ほりぞえ」

所感：こころ温かい、前向きな常磐・鹿島灘の漁業を考える研究集会に参加することが出来た。持続可能社会・明るい平和な・こころ美しい「海洋観光立国」への大きな展望を感じた。美味しい魚と素晴らしい自然を楽しむ漁村水産観光に期待したい。 (文責 中瀬)